

専門科目問題

(90分)

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. この問題冊子は全部で3ページあります。また、問題冊子とは別に解答用紙2枚(その1～その2)が配付されます。
3. 解答開始後、すべての解答用紙指定欄に受験番号、名前を記入しなさい。
4. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

以下のA（計画・環境系A-1～A-2）およびB（経済・社会系B-1～B-2）の設問群から、それぞれ1問ずつ選んで解答しなさい。

A（計画・環境系）

A-1

高潮に関する次の問いに答えなさい。

- (1) 高潮の発生原因である「吸い上げ効果」と「吹き寄せ効果」について説明しなさい。
- (2) 上記以外にも高潮災害の発生を促す諸要因が存在する。その諸要因について1つ以上取り上げ説明しなさい。
- (3) 高潮による被害を防止・軽減するハード対策、ソフト対策について説明しなさい。

A-2

公共事業の効率性等を向上させるため、河川整備事業や道路事業等の多くの公共事業において事業評価が行われている。事業評価時の便益試算に関して、一つの公共事業を取り上げ、便益の考え方、試算項目及び評価指標について概説しなさい。

B（経済・社会系）

B-1 次の文章をよみ、以下の問いに答えなさい。

著作権保護の観点から公開していません。

著作権保護の観点から公開していません。

出典：瀬木比呂志、2024年、『現代日本人の法意識』講談社現代新書、一部改編

問1 下線部(1)と著者が判断するのはなぜか、説明せよ(200字程度)。

問2 下線部(2)と著者が判断するのはなぜか。近代法ならびに日本社会の特徴を踏まえて説明せよ(200字程度)。

問3 下線部(3)と著者が判断するのはなぜか、説明せよ(100字程度)。

B-2 社会調査における量的調査において用いられる標本抽出法のうち、無作為抽出法に関する以下の問いに答えなさい。

問1 無作為抽出法のうち、単純無作為抽出法についてその手順を述べよ(100字程度)。

問2 単純無作為抽出法の利点と欠点について他の抽出法と比較しながら述べよ(200字程度)。

(問題は以上です。以下は白紙です。)